
とある妹ゲーと都市伝説？

榎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とある妹ゲーと都市伝説？

【Nコード】

N9295P

【作者名】

檉

【あらすじ】

とある妹ゲーをめぐる物語？

(前書き)

ムシャクシャしてやりました。反省しかしてませんがよろしかったらどうぞ。

本当にすみませんでした。

上条当麻には青髪ピアスという友達がいる。彼はあらゆる属性の女性を愛でるといふ素晴らしい異能力を持っている。

上条当麻には幻想殺しという異能力なんでも打ち消す能力を持っているが、こればかりは打ち消せない。

ある日の放課後。青髪は上条にある“ゲーム”を手渡す。

「しん、いもうとたいせん、しすかりぷす？」

「そやでカミヤん。通称、『シスカリ』やでえ。」

似非関西弁が青髪の特徴である。

「えーと、お前はどうかやってこんなもんを入手した？しかも外部のモンだよなこれ。」どうみても18禁な妹ゲーをまじまじ見つめ問う上条。

「そんな細かいことはええねんてーカミヤん。とにかくおもしろいから、やってみ。でボクと対戦するわけ。」

「わ、わかったよ。」男子高校生であれば、エロとつくモノに興味がないことなどない。

：

とまあこんな具合にエロゲを押し付けられ自室に戻った上条。早速プレイしたいが、弊害があった。彼の部屋には居候がいる。14歳くらいの英国のシスターしかも女性。いくらなんでも彼女の前でエロゲをやるわけにはいかない。

彼には策はあった。素敵な隣人の力を借りるというものだ。

「わりいインデックス、ちょっと土御門の部屋に行ってくるわ。」

「うん。はやく帰ってきてね？お腹減る前に。」

「ああ…できればな。」そそくさと隣人宅へ転がり込む。

「お、なんだカミヤーン。面白そうなモン持つて。」彼は土御門元春。金髪にグラサン、アロハシャツと派手な出で立ち。色々なステータスがあるがやたら長くなる上、今回はどうでもいいので省略する。

「いや。青髪が貸してくれて。どーもエロゲらしいんだが。」

「待てカミヤン……………これはいわゆる妹モノでは？」

「ああ。タイトルからしてそんな感じだよな。」

「舞夏にや悪いがここは俺も参加させてもらうにゃー。」

「対戦ゲーらしいから、丁度いいよ。うし、パソコンを起動だ。」

土御門はノートパソコンを起動させる。デスクトップは義妹の写真詰め合わせであるがここは敢えてツツコまないことにする。ディスクを突っ込み、インストール完了。いよいよプレイしていく。

「キャラも豊富で面白そうだなー。」キャラを選択していく2人

しかし上条はとあるキャラを見てがく然とする。

「どうしたカミヤん？お、カミヤんは電撃使いの妹を使うのかにゃー？って…あれ？これって？」

「…マジか。」

上条が見たのは、彼を見つけると何かと突っ掛かってくるビリビリ中学生、御坂美琴そっくりのキャラだ。

上条は何をとち狂ったかそのキャラを選択する。

更にこのゲーム、コスチュームも選択できる。上条は妖精風のコスチュームを選択すると、妖精風な御坂が出来上がる。

最後にバトルスタイル、要は必殺技などを決めるのだが、『超電磁砲』を見つけた瞬間に吹き出した。これはもう…なんというのか。

（御坂のDNAマップが学園都市外に流出でもしたのか？）

などとあり得ない考えをも巡らせながら対戦がスタートする。

「つ、土御門、初プレイのゲームの割にあり得ないだろそのテクは」
「土御門の攻勢に上条のキャラはあつという間に体力を削られていく。」

「はっ、ほざけカミヤん。妹と名のつくゲームで俺が負けるわけがないですたい。」

圧倒的な妹力の前に屈する上条。その後のラウンドも同様の展開に。

「はっ、この分ならやりこんでる青髪にも負ける気がしないですたい。いかんせん俺の得意分野だからにやー。」

「どこの世界に得意分野が妹という奴がいるかー！」惨敗した悔しさから上条は叫ぶ。

「もう一回だ！」と画面を向き直る2人だが…

画面では負けた上条の『妹』が辱しめを受けるCGが流れる。

「……………」上条は暫くフリーズしていたが、自我を取り戻すと音速で画面右上の×をクリックする。

「か、カミヤん……………」

「ふ、不幸だ……」

その瞬間を凶ったかのように上条の携帯が鳴る。不幸とは重なるものだと上条はよく知っている。その予想通り御坂からである。

『もしもし？あんだ、メール見たんなら返信しなさいよねーって聞いてんのー？』

「御坂さん、本当にすみませんでした。僕は何も見ていません。このことは誰にも言いません。本当にすみませんでした。本当にすみませんでした。」

『え、ちょ、今日はやけに素直ねあんだ。』

「本当にすみませんでした。本当にすみませんでした。」

『だあーもうわかったから。で、あんだ今から暇なわけ？』

「御坂さんの為ならなんでもいたします。すみませんでした。」

『ななな、なんでも？じ、じゃあ、今から、ちょっと、用があるから…その…』

「わかりました今すぐ寮までお迎えにあがります本当にすみませんでした。」

その後、常盤台中学の寮の前で土下座し続ける不審な少年がいると話題になり、新たな都市伝説が生まれたのは言うまでもない。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9295p/>

とある妹ゲーと都市伝説？

2011年1月9日03時00分発行